

研究室彙報

眞宗學研究室

△眞宗學會

○卒業生送別會

昭和十五年二月二日(金) 午後五時、圓山仙樂園に於て本年度卒業生送別會を催す。折からの雪をついて會する者三十五名、内、新卒業生十二名、加藤、安井、可西、源、稻葉秀、杉平、日野、一乗の諸先生、副手二名、其他、一同頗る潑刺、盛會裡に散會す。

○卒業記念寫眞撮影

二月九日(金) 午後十二時半、於玄關前。

佛教學研究室

△大乘佛教學會

○卒業生送別茶話會

研究室彙報

昭和十五年二月七日、午後三時より於第十一教室。

出席者 松原、山口益教授、星昇、河野助手、佐々

木留學生、研究科佐々木氏、他、學生十數名。

本年度卒業生 諏訪等流、多田祐州、吳田文英の三君。

人文學研究室(第二)

△國史學會

○新島會館見學(寺町丸太町上ル)

十一月二十一日

新島襄絶筆・航海日誌等

同志社設立ニ關スルモノ

徳重教授、外學生、十五名

○若狹越前史蹟見學旅行報告會

十一月二十五日 於第八教室

福井藩の教育制度

永平寺に就いて

大原山西福寺

速水俊憲君

溫科陽君

瀧謙澄君

氣比神宮と砂持行事

武村 務君

若狹彦・姫神社

太田 賢君

神 宮 寺

松本 義照君

明通寺に就いて

丹羽 康君

徳重教授外學生十名

飛彈山村の生活

細川 博君

○高木麗慶君懸賞俳句當選記念祝賀會

十一月二十五日、於森永キャンデーストア。

△國文學會

○圖書館秋季展覽會

新愛知新聞創立五十周年記念として懸賞俳句の募集をなしたる所高木君選ばれて一等となり大臣賞としての賞楯を獲得されたるに就き會員集いて祝賀のため夕食を共にす。

徳重教授外學生十三名

昭和十四年十月廿八、廿九の兩日、本學圖書館主催の下に、龜田教授所藏の韻鏡諸本を出陳して、その展覽會を開催し、廿八日午後一時、同教授の「韻鏡管見」と題せる講演ありたり。

○諏訪義護助教歸朝講演會

○例 會

十二月十三日、於會議室

十一月廿九日(水) 午後三時、於第十一教室

佛教史學會と合同にて例會として開催す、尙本會竹井一實君が此の講演を記録す可く速記されたるものあり、

萬法寺本曾我物語に就いて 清水 教授
出席者 清水教授、藤井副手、仲野先輩外學生九名。

○卒業論文第一回研究發表會

日下、加藤、藤島、道端諸教授外學生十七名

十二月十八日(月) 午後一時、於第十一教室

更級日記の思想的研究

足立義夫兄

發心集の研究

秋月智顯兄

本地物の研究

成瀬守正兄

出席者 清水教授、雨宮助手、藤井副手外學生十名。

○卒業論文第二回研究發表會

十二月二十日(水) 午後二時、於第十一教室。

幸田露伴の研究

伊東 詮兄

小林一茶の研究

川那邊 大願兄

出席者 龜田、清水兩教授、藤井副手外學生十一名。

人文學研究室(第二)

△東洋史學會

○十二月五日(火)、午後三時第十一教室に於て例會を開く。講師及演題左の如し。

海部の叛亂について

愛宕 教授

羽田、野上教授外學生多數參集。

○十二月二十四日(金)、五時ニューキョートにて諏訪義讓先生歡迎會を開催す。

野上、道端教授高志先輩學生九名參集。

○一月二十七日(土)、三時より第十一教室に於て卒業論文發表會を開く、講師及び演題左の如し。

西夏より見たる金代

本田 文明

野上、羽田、愛宕教授外學生多數參集。

定 和 時

引き続き京極神戸にて送別會開催す。

昭和十四年度大谷學會決算書

収入部

會 費 金壹、五六六圓〇〇

學報賣下收入 金 壹四圓壹四

雜 收 金 九參圓六參

計 金壹、六七參圓七七

支出部

印刷 費 金壹、貳六貳圓貳五

原稿 料 金 四〇壹圓壹〇

編輯手當 金 貳四〇圓〇〇

通信運搬費	金	參貳圓參貳
雜費	金	壹六圓九〇

計

金	壹、九五貳圓五七
金	貳七、八圓八〇

差引不足

右不足金ハ準備積立金ヨリ之ヲ補填ス

準備積立金左記之通

前年度ヨリ繰越積立 金貳、〇九〇圓參五

本年度末缺損額 金 貳七、八圓八〇

差引積立金 金 壹、八壹圓五五

右之通候也

會計課

告！

現今時局下に際し、洋紙其他原料暴騰によつて、右の決算書に示す如く、十三年度、十四年度、共にその缺損を見るに至り、かくて本學報に於ても次號よりは約百頁位の標準に爲し、こゝに減頁するの止むなきに立ち至つたのである。この點、豫め會員諸彦の御寛恕を乞ふ次第である。